

座禅洞だより



親愛なる子どもたちへ

2012年6月24日

Sebastian Pflüger



私たちは君たち皆の父親であり、母親であり、祖父であり、祖母でもあります。私たちは行動を起こそうとしている市民であり、科学者でもあります。私たちはこの美しい猪苗代で、一緒に働き、そして考えるために二日間集まりました。私たちは、ここの自然の美しさに心を奪われています。大きな湖が見え、窓からは濃い緑の山々が見えます。冬には多くのウィンタースポーツの愛好者が集まると聞いています。私たちの多くは日本から来ました。そして多くが福島県から来ました。また何人かは、飛行機に乗ってヨーロッパから来たのです。それはとても長い旅でした。

私たちがここに集まっている本当の理由は君たちです。私たちは、君たちや君たちの子どもたちが、健やかに成長することを願っています。君たちは皆あの大きな地震のこと、津波のこと、福島第1原発の事故のことを知っていますよね。あの時本当にたくさんの危険な物質が空気と海の中へ流れ出たのです。その物質は放射性です。見ることも匂いをかぐこともできない光を放っているのです。それが危険なのです。見えないから、深い水たまりをよけるようにその周りをよけて通ることはできません。この物質は地面に落ちて植物に入っていきます。動物がそれらの植物を食べ、その物質で汚れた水を飲みます。私たちがそのような植物や動物を食べると、この放射性の物質は、私たちの体に入ってきます。たくさんの動物や植物が病気になりますが、私たちもそのことによって病気になるかもしれません。私たちの何人かは、今どのような食べ物を食べてはいけないかを調べようとしています。とても大事なことです。

私たちは、誰もが息をしなければなりません。空気の中にも放射性の物質は漂っています。私たちが空気を吸って、この物質が肺の中にたまってしまうととても危険です。私たちは怒っていて、同時にとても悲しんでいます。君たちに何を食べさせたらよいのか、こんなに考えなければならないということに。君たちが毎日吸っている空気について、こんなに考えなければならないことに。(中略)

ドイツやほかの国々で、たくさんの人々が通りに出て抗議をしました。それによってたとえばドイツでは原子力発電所が止められることになりました。一度に全部ではないですが、とにかく止められることになったのです。今、東京や大阪や日本のたくさんの町で、大きなデモが行われています。人々は、止められている原子力発電所は、止めたままにしておいてほしいと思っているのです。一度止まった原子力発電所が再び動かされようとしていることに反対しているのです。今、君たちのためにここに集まって話合っていないければ、私たちもきっと彼らと一緒に通りに出ているでしょう。

私たちには残念ながら力が足りません。すぐに日本中の原子力発電所を止めるように命令する力は、私たちにはありません。でも私たちは、多くの人々が勇気をもって、原子力発電所について本当はどう思っているのか、大きな声で言ってくれることを願っています。君たちのお母さんは、君たちが公園で遊んでよいかどうか考えなければならぬことを喜んでいてと思いますか？ 何をお昼に食べさせたらよいかなんまり、君たちがすでに放射線で病気になっているのではないかと心配しなくてはならないことを喜んでいてと思いますか？ お母さんが君たちを連れて安全な地域に行くときに、お父さんが危険な地域に残って働かなければならぬことを、両親が喜んでいてと思いますか？ (略)

君たちが大きくなっても、福島で起こったこと、君たちが経験したことは、忘れないでください。嘘を信じないでください。君たちの頭を使って考えてください。

私たちの力は小さいかもしれない。けれども、私たちはこれからもできる限り真実を探すと君たちに約束します。そして真実について、人びとと分かち合っていきます。私たちは諦めないと約束します。たとえ私たちがやり遂げられなかったとしても、君たちがやり遂げてくれると信じています。(略)

この手紙は、君たちと未来へのかけはしです。君たちがこのことについてどう思っているか、語り合えたらと思います。心を込めて セバスチャン・プフルークパイル

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
診察日：月曜・木曜・金曜
受付時間：9:00~12:00
〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
IP Tel:058-295-9545
FAX:058-296-3903
E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
http://zazendoh.town-web.net/
第100号 2012.7.1
毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第101号 2012.8.1

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



第五福竜丸展示館の庭にある、
言葉が刻まれた碑

原水爆の被害者は私を最後にしてほしい
 一久保山愛吉一

松井英介

久保山愛吉さんは1954年3月1日ビキニの海で西から昇る太陽を見ました。

そして、「死の灰」を身体の奥深くまで吸い込んだ愛吉さんは、半年後、帰らぬ人となりました。

「死の灰」は、アメリカ合衆国が南太平洋の海で行った水爆実験の結果でした。大量にまき散らされた放射性物質の小さな粒が、愛吉さんの細胞・DNAを傷つけたのです。

東京都江東区夢の島公園、「第五福竜丸展示館」の庭にそっと置かれた碑には、愛吉さんの言葉が刻まれています。

第五福竜丸乗組員23人の7割ががんでいのちを奪われました。死亡時平均年齢52歳。東電原発大惨事を経験した今、愛吉さんの言葉をつぎのように読み替えるべきだと、私は感じています。

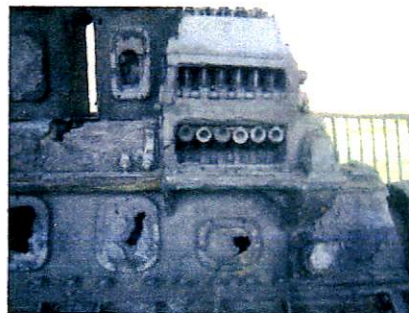
「核の被害者は私を最後にしてほしい」。

マグロ漁船に乗るとき19歳だった大石又七さんは、自らもがンを背負い、初めて授かった子は死産で障害がありました。その後普通に生まれた娘さんへのいわれの無い差別を乗り越え、又七さんは各地の子どもたちに語りかけています。

日本列島全体が「死の灰」に覆われた今だからこそ、ビキニ事件に学べと。



訪れた人たちからの願い・折り鶴



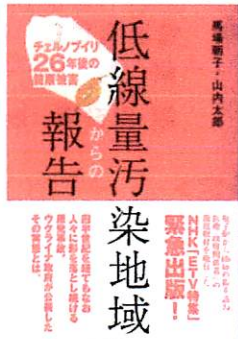
第五福竜丸エンジン



2012.07.21, 第五福竜丸展示館
 事務局長・安田さんと

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
第103号 2012.10.1
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



ウクライナ 医師たちの声

松井英介

観た方も多いかと思いますが、「チェルノブイリ原発事故汚染地帯からの報告」と題されたNHKのETV特集が、2012年9月16日と23日にわたって放送されました。

ご覧になった感想はいかがですか。私は目からウロコの想いでした。

びっくりしたのは、それから数日後のことです。いつも行く本屋で、「低線量汚染・・・」という背文字が目飛び込んできたのです。タイトルは「低線量汚染地域からの報告—チェルノブイリ26年後の健康被害」。帯には「ETV特集」緊急出版！とあります。ページを追ってみると、TV番組に登場した医師や被災者の写真があるではありませんか。私がびっくりしたのは、この本が番組制作の過程で準備され、放送と同時に出版されたことです。著者は、馬場朝子・山内太郎とあります。

東電原発大惨事の直後からきわめて深刻な被害の実態に直面し、東電・日本政府など原子力ムラの対応に不安と怒りをつのらせた庶民の「ほんとのことを知りたい」という声に押されて、彼らはウクライナに飛んだのでした。二人のジャーナリストの意気込みが行間から立ち上ってきて、私は思わず涙しました。

矢吹寿秀「ETV特集」チーフプロデューサーは、この本の巻末に書いています。

『ウクライナ政府は、がんや心臓病などありふれた病気が放射線によって起こったことを証明するのはむづかしいかもしれないが、原発事故関連の病気は膨大な数に上っていると主張し、その実態を「ウクライナ政府報告書」にまとめています。この報告書は国連科学委員会の見解に真っ向から異議申し立てをするものであり、低線量被曝による健康障害についての国際的な合意に反する主張です。』

そして彼は、ふたつの畧をよく知っておく必要があるとして、①「ありふれた病気」の畧と、②「データ不足」の畧を挙げています。①どんな因子であれ、それが心臓病やがんなどありふれた病気の原因だと疫学的に証明することは大変むづかしい。②そもそも原発被災者は「データ不足」の畧から逃れられないのではないかと。

心臓病やがんや糖尿病や白内障が、原発事故によるものだと証明できる「証拠がない」というひとに、私はつぎのように言いたいのです。

WHO（世界保健機構）は、1959年IAEA（国際原子力機関）との間に結んだ合意書を破棄し、まずIAEAから独立してください。ウクライナ・ベラルーシそして日本で、被災者とくに子どものいのちを守る、WHO本来の医学医療活動、疫学調査活動をやってください！

（WHOとIAEAの合意については、座禪洞だより6月号をご参照ください。）

座禪洞だより

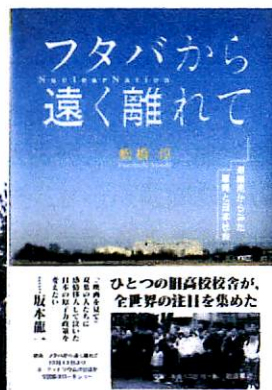
■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第104号 2012.11.1

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

「フタバから遠く離れて」

松井英介



その日、突然、その町に住んでいたひとは全員、移住を強いられました。お気に入りのブラウスを、一張羅のスーツを、タンスの中に残したまま。折に触れて楽しんでいた映画や娘の結婚式のDVDも。

事故から3ヶ月、各家族から選ばれた人びとは、大型バスで、たった二時間の一時帰宅。住み慣れた自宅から持ち帰ることができるものは限られています。おじいちゃん、おばあちゃん、そして、子どもたちの願いを書き留めたメモを手に、朝5:00時、移住先の騎西高校を後にしました。

土台だけ残して、跡形もなく消えた家。そのときたまたまそこにいた妻は津波にさらわれ行方不明。墓石は倒れ、地蔵の小さな首はもげて土の上に。

「水に触ってはだめ」、「ガレキも!」。声が飛んできます。

そっと、花を手向け、手を合わせます。

一見何ごとにもなかったように、あの日のままの商店街・・・

痩せた牛が二頭、車が走らなくなったアスファルトの道をゆっくり歩いています。

船橋淳監督は、ある日突然全てを奪われた人びとの日常を一年以上かけて写し取り、私たちに届けてくれました。井戸川克隆町長インタビューを載せた本も出しました。

「フタバから遠く離れて」。このタイトルは、移住したところが250kmも離れた埼玉県加須市だということ以上に、手を触れることもできなくなった「ふるさと」への、人びとの切ない想いを表しているのではないのでしょうか。

双葉町の人びとに今一番必要なものは、放射性物質に汚染されていない「新しい双葉町」だと私は思います。そこには、慣れ親しんだ隣近所の人びとがいます。幼馴染がいます。誇りをもって働く場があります。山や川や海で、元気に遊ぶ子どもたちの声が聞こえます。

「新しい双葉町」つまり「町まるごと移住」を実現するには、受け入れ地の人びとの人間らしい暖かい心が不可欠です。そして、「ふるさと」を奪った東電・日本政府に、移住のための基金を準備させなければなりません。

「集団移住の権利を保障する法」成立のために力を合わせましょう。

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
診察日：月曜・木曜・金曜
受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel: 058-295-9545

FAX: 058-296-3903

E-mail: zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第107号 2013.2.1.

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

近づけない、帰れない

松井英介

福島県双葉町民約7,000人は、全国各地に避難を余儀なくされました。

私は、1月後半から2月かけて、福島県、埼玉県、茨城県にある六ヶ所の仮設住宅・避難所・借り上げ住宅の方々に、「内部被曝」の話を聴いていただく機会に恵まれました。今までに訪れた四ヶ所とも、お年寄りが多かったのですが、熱心に話を聴いて下さいました。また、活発な意見交換ができました。福島の人にはものを言わないなどと聞きますが、私が出会った人びとはそうではありませんでした。東電と政府の責任についてははっきりと発言する方々がおられました。

福島市仮設住宅内では、1.75mSv/yr (0.19 μ Sv/h)を計測。白河市では、1.66mSv/yr (0.2 μ Sv/h)。いわき市三崎公園では、1.47mSv/yr (0.168 μ Sv/h)でした。1991年制定の「チェルノブイリ法」は、年間1ミリ・シーベルト (mSv/yr) 以上の地域からは避難する権利を定めました。1977年に発表された「マンクローズ報告書」は、原子炉運転作業に携わる労働者を年間1ミリ・シーベルト (mSv/yr) 以上の現場で働かせてはならないとしました。

仮設住宅の放射線量は高すぎるのです。子どもと一緒に暮らしている家族はありませんでした。また仮設住宅があまりにも狭い(3畳二間に台所と風呂)のも、家族が分断される原因だと考えさせられました。このような環境でふた冬を過ごし、まもなく2年です。

福島市の仮設住宅でお会いしたYさん夫妻(夫86歳、妻82歳、写真)の話が忘れられません。

原発から4km、代々の専業農家で2町歩の米作り、築200年、間口20mの二階建て。秋にはおじいちゃんが渋柿をもいで、おばあちゃんが二階の軒先に吊るす。その数、一連に10個が千連、合計一万個。地震で土蔵と母屋の一部は壊れたけれど、先祖代々の家はそのまま残っている。でも近づけない、帰れない。原発から4km山田地区の空間線量は年間1,042ミリシーベルト (mSv/yr)。年間1シーベルト (Sv/yr) を超えているのです。



おじいちゃんは脚が不自由なので、働き者のおばあちゃんがチリトリで雪かきをしました。

「原発関連の交付金で造った物はすべて町に置いてきました。原発の誘致は町だけで出来ない、県が大きく関わってはじめて可能となる。私たちは全国の人たちから、『お前たちが原発を誘致しておいて被害者面するな』という批判を受けている。私たちはどこにいても本当の居場所がない今、苦悩に負けそうになりながら必死に生きている」。「町には古くから先人が築いてきた歴史や資産があります。歴史を理解していない人に中間貯蔵施設を造れとは言われたくありません。町民の皆さんが十分議論した後に方向を決めていただきたい。若い人に決めてもらうようにしてほしい」。

辞任に追い込まれた井戸川町長が1月23日に書かれたメッセージ「双葉町は永遠に」の一節です。双葉町のwebsite (<http://www.town.futaba.fukushima.jp/>)に入るとその全文が読めるので、ぜひともお目通しください。

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診察日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

<http://zazendoh.town-web.net/>

第108号 2013.3.1.

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

環境影響評価は要らない？！

松井英介

「町には古くから先人が築いてきた歴史や資産があります。歴史を理解していない人に中間貯蔵施設を造れとは言われたくありません。町民の皆さんが十分議論した後に方向を決めていただきたい。若い人に決めてもらうようにしてほしい」。前号で紹介した井戸川克隆双葉町前町長の言葉です。

中間貯蔵施設とは、福島県全域で行なわれる除染の結果出てきた汚染土など放射性ゴミの置き場です。この施設を国と福島県は、双葉町など高度に汚染された自治体に押しつけようとしています。しかも、一方で双葉町などの東電事故原発に近い町や村を放射線汚染の程度によって三つに分け、汚染の比較的低いところには、近い将来戻れるかもしれないという幻想を与えているのです。

井戸川さんは、私につぎのように話しました。「福島県全域の土を仮に10cm剥いだとしたとき、どれだけの容積になるのか。その試算すら国はやっていないのです！」。

一昨年6月土の表面数cmに留まっていた汚染は、昨年3月には30cmの深さにまで入り込んでいました。中間貯蔵とは名ばかり、放射性物質の処理方法は全く決まっています。

一方で環境省は、原発事故で生じた高濃度放射性廃棄物を焼却する実験的施設の建設を福島県鮫川村で始めました。各地で処分が滞っている汚染稲わらや牧草の処理モデルを目指すのだとしています。しかしここで使われる焼却炉は、処理能力が199kg/hと小さく、廃棄物処理法対象外＝環境影響評価不要の曲者なのです。

これに対して周辺住民は猛反発。2月14日いわき市で開かれた住民説明会の様子は、福島テレビの下記サイトで見るができます。

http://www.fnn-news.com/speak/ss/video/ss_wmv_300.html?file=ss2013021528_hd_300

また2月24日、鮫川村青生野地区で開かれた住民説明会は、夜6時から10時までつづき、住民の焼却炉建設反対の声に、村長・村議会議員・環境省の役人はたじたじだったそうです。放射性物資の処理は、核大惨事の原因を作った東電と国が責任をもって行うべきで、最も深刻な被害を受けた自治体住民に押しつけてはいけません。

双葉町長の辞職にともなう町長選挙は、2013年2月28日(木)告示、3月10日(日)投票。井戸川克隆前町長も立候補を決意されました。引きつづき、住民とくに子どものいのちを守る活動の先頭に立っていただけるよう、願って止みません。



図の説明：2013.02.14いわき市住民説明会
文中福島テレビwebsiteから引用

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00～12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel: 058-295-9545
 FAX: 058-296-3903
 E-mail: zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
<http://zazendoh.town-web.net/>

第109号 2013.4.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

子どもたちへ

松井英介

3月14日、私は初めて双葉町を訪れました。2年前に時が止まったままの人影のない街並、一面枯れたセイタカアワダチソウに覆われた田園風景に息を飲みました。完全に潰れ屋根瓦が地面に接している家々。放置された自転車・自家用車・トラック・耕運機……。缶ジュースが詰まったまま静かに動かない自販機。枯れたセイタカアワダチソウに覆われた田んぼ……

今なお50～100 μ Sv/hr (438～876mSv/yr) 以上の高線量地域が町内随所にあります。政府と福島県はこのような双葉町をも三つに分断し、あたかも町に帰ることができるかのような幻想を与えながら、一方で、放射性汚染物質の中間貯蔵施設を受け入れさせようとしています。

私たちはこの度、一冊の絵本をつくりました。

セバスチャンおじさんからの手紙『子どもたちへ』です。絵本したこの手紙は、昨2012年6月福島県猪苗代町で開かれた「市民科学者国際会議」で生まれました。ドイツ・ベルリンから参加したドイツ放射線防護協会会長・セバスチャン・プフルークバイルさんが、福島の、そして日本の子どもたちに宛てて書いたものです。「私たちは同じ舟に乗っている（運命共同体なのです）」と語るこの手紙を、私たちは日本の多くの子どもたち、若い人たちに届けたいと願いました。



放射性物質は、目に見えません。匂いもしなければ、たいていは感じることもありません。

2011年3月11日の震災で、福島県にある東京電力福島第一原子力発電所が爆発、原発から出た放射性物質は空気中をただよい、東北地方を中心に、土、山、川に降り注ぎました。見えない、その放射性物質は、地球上にもともとあった自然放射線と違って、人間がつくった毒なのです。この毒がいのちの仕組みをこわし、病気にかかりやすくするのです。

いのちは、何よりも大切なものです。

それは、おじいさんおばあさんからお父さんお母さんに受け継がれ、そして子どもたちへ、そのまたつぎの世代へと受け渡され、続いていきます。いのちは、未来です。いのちがやどる小さな細胞ひとつひとつに何が起こるのか、大気や食べものに混じって、ひとつひとつの細胞の中にやってくる、目に見えない放射性物質の小さな粒のことを、私たちは考えなくてはならなくなりました。

セバスチャンおじさんは、語りかけています。

「君たちが大きくなっても、福島で起こったこと、君たちが経験したことは忘れないでください。誰にも君たちに嘘をつくの許さないで、君たちの頭を使って考え、真理を探究してください。そしてそれは、君たち自身の力で行ってほしいのです」と。 (3月末発売 A5版 定価950円＋税 発売 旬報社)

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第110号 2013.5.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介

“おかん”の声

松井英介



2013年4月20日には京都で、福島県を中心として東北や関東各地から避難してきたお母さんの話をきかせていただきました。集いを主催したのは、京都反核医師の会の方々。翌21日には大阪で、岩手・宮城から受け入れた放射性物質に汚染されたがれきを焼却処理する施設の近くに住んでいるお母さんと交流しました。お父さんたちもいましたが、主催は「大阪おかんの会」。

どちらにも共通しているのは、鼻血、のどの違和感や痛み、せきやたん、眼のかゆみや不快感、頭痛やあたまがスッキリしないなどの症状、また、将来への不安を訴えておられることでした。大阪では、1000人ものひとたちから健康異常の聞き取りをして、そのデータをもとに、大阪市と交渉を重ねています。

京都では、医師たちがお母さんたちの話に耳を傾けようとしているのが、印象的でした。京都の会場で買ってきた「避難移住者たちの手記」第2集の一部を以下に引用します。

詩人・中村純さん（内部被曝から子どもを守る会 関西疎開移住者ネットワーク代表）は、書いています。

「子どもたちは、家族と暮らしたい、泥団子を作り、思いきり走れる大地がほしいのです。子どもたちを被曝させ続けない、もう一度ここから始めたい、・・・」

そして、二歳の息子といっしょに東京から京都に避難してきたお母さんの声。

「・・・弱者としての支援・被支援の関係は、私は求めています。私たちの求めているのは子どもたちの当然の権利です。健康を害されない権利です。基本的人権です。」

一冊500円のこのブックレットの売り上げは、「子ども検診医療基金・関西」

(mail address ; kodomokenshin@hotmail.co.jp)の基金に使われます。

一方、日本政府はどうしようとしているのでしょうか。

文部科学省のHPを見ると、放射線量の高い（年間900mSvを超えるところもある）双葉町や大熊町など事故原発に近い地域の住民にも、その人たちの意向を無視して、“故郷”へ帰らせようとしています。文科省のHP（原子力損害賠償紛争審査会（第31回）配付資料：文部科学省.htm）をぜひともお読みください。大惨事の原因を作った日本政府・東電など「国際原子カムラ」と、彼らを背後で操っているIAEAの非人間的な考え方がよくわかります。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00～12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

<http://zazendoh.town-web.net/>

第111号 2013.6.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



いのち萌え

松井英介



乾いていく畑の土を見ながら、一日千秋の想いで待った雨。

立ち上がり、葉をひろげだしたサツマイモの苗。

朝日を浴びて、光るこずえの新芽。

ふくらみ、開く、はな、はな、花、いのちの群れ。

待ちかまえていた、トンボや、チョウや、ハチや、カや、ムカデたち。



そわちゃん、4ヶ月。もう間もなく寝返りが打てるかな。

笑筋が動きはじめ、対話ができるようになってきたね。

相手をしっかり見定める。

親愛の情を口や眼の動きで伝える。

からだ全体で喜びを表す。

向きを変えて、もうひとりの何者かをじっと見て、確かめる。



自分の目で確かめ、自分の頭で考え、

決して諦めず、自分の道を切り開いていってね。



座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
<http://zazendoh.town-web.net/>

第112号 2013.7.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



子どもの甲状腺がん

松井英介

福島県では、2011年と12年に甲状腺超音波検診を受け、手術でがんと診断された子ども（18歳以下）が12人見つっています。そのほかに甲状腺のしこりに針を刺す細胞診検査の結果、がん疑いとされた子が15人います。合計27人です¹⁾。

2011年に検診を受けたのは、事故を起こした東電福島第一原発に比較的近い双葉郡などの子ども40,302人。12年の検診対象は、事故原発から少し離れた福島市など中通りの134,074人。あわせて対象は174,376人です。手術でがんと確定診断された12人を対象数で割ると、0.0001548人。人口10万人対して15.48人。100万人対して155人にもなります。

原発事故以前の全国統計では、子どもの甲状腺がんの数は、100万人に1人から18人。甲状腺がんの患者さんを診たことのない小児科の医者がほとんどなのです。

ところが、今回の検診を担当した福島県立医科大学の鈴木俊一教授は、「今回みつかった甲状腺がんは、原発事故とは関係ありません」とくりかえし発言しています。子どもの甲状腺がんがめずらしいことは知っているはずですが、にもかかわらず、なぜ事故と関係ないと言い張るのでしょうか？

一方、岡山大学の疫学の専門家である津田敏秀教授は、甲状腺がんの大量発生をアウトブレイクとみなして調査に入る必要があると述べています。アウトブレイク（outbreak）とは、集団発生とか大発生の意味です。例えば、同じものを食べた二人以上に食中毒が出たとき、米国疾患管理予防センターは、アウトブレイクであるとして、すぐに対策を取らなければならないとしています。またボツリヌス食中毒のような重篤な食中毒では、たった一例でもアウトブレイクとみなし、調査に入るのです²⁾。

あなたは、子どもの甲状腺がんのアウトブレイクに直面したとき、どうしますか？

文献

1-2013.06.05福島県県民健康管理委員会発表。

2-津田敏秀，山本英二：多発と因果関係一原発事故の甲状腺がん発生の事例を用いて。

「科学」2013；83：0497-503。

図：キエフ内分泌代謝研究所での甲状腺手術。1991年 「放射線被曝と甲状腺がん—広島、チェルノブイリ、セミパラチンスクー（2011）溪水社」から引用

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第114号 2013.9.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

福島県浪江町から、みずえさんの訴え

松井英介

・・・15,000頭ほどの牛を殺処分した。それでも放れ牛がいて、人間を信頼して寄ってくる。「ごめんね、ごめんね」と言うしかなかった。

・・・2012年1月に、うちのワンコが突然吐血して死んだ。その後仮設のワンコが次々に死んだ。仮設住宅は、阪神・淡路大震災の時につくられた法律によって建てられているので東北の冬を想定した造りではない。寒い冬に、コンパネの床に寝る老後を送るとは思いも寄らなかった。・・・

これは、「帰宅困難区域」とされた福島県浪江町の酪農家・菅野みずえさんの話です。

・・・今私たちは先祖の菩提寺に参りましても、手袋で靴の上にビニール袋を履いています。素手で何かに触ることなどありません。蝶々さえ見ることはありません。ツバメの巣は軒から落ちてしまいました。あれほど大きかった蔵の青大将にも会いません。見るのも嫌でしたが、今となっては素肌で地を這う蛇は生きていられないのかと哀れに思われます。人のせいです。・・・

・・・私は拗ねているのか、国や県から絆と言われるのが嫌な気がします。絆とはべこ繋ぐ紐のことだべ、おらたちは誰に繋がれ、どこさ連れて行かれるべか」そんな気がするのです。「紐で人さ繋がるものでねえ、人は自分で手さ繋ぐんだもの、紐さ要らにいべ」そう思っています。・・・



2013. 5. 7
 避難指示区域

避難指示区域
http://www.meti.go.jp/earth/pdf/130507_130507_01f.pdf

みずえさんの話を紹介して下さったのは、小浜市にある明通寺の住職・中嶋哲演さんです。

小浜市は、原発が林立する若狭にあって、唯一原発を作らせなかったまちです。哲演さんは、ずっと以前から地元の人たちとともに原発誘致に反対し、いまでも大飯原発差し止め訴訟の原告となり、原発のない地域づくりのために力を注いでいます。

その哲演さんが、6月15日にみずえさんを招いて開いた「聞いてください、浪江町のこと」と題する集いの報告を、送ってくださったのです。「―若狭の原発を考える―はとぽっぽ通信」(2013. 08, 第194号)。

哲演さんとは、7月27日高槻市で開かれた医の倫理を問う集いで初めて会いました。

みずえさんは、帰れないのなら「コミュニティーごとに移り住める代替え地が欲しい」と訴えています。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第116号 2013.11.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

阿武隈山系の湧水

松井英介



「ネズミが家の中に入ってきて、大切な家具や柱をかじるので困っています。一時帰宅で、短い時間、久しぶりに帰るとネズミの糞や尿がそこそこあるのです。以前に仕掛けたネズミ捕りの中に死骸を見つけると、もう嫌になってしまいます」

東電福島第一原発の事故現場に近い双葉町の方々が避難している福島市や郡山市の仮設住宅で聞いた話です。10月から来年1月にかけて、福島県内外に作られた十数カ所の仮設住宅や借り上げ住宅に、離ればなれに住んでいる双葉町の方々を、私は訪ねます。

古い歴史を誇る双葉町では、先祖代々受け継がれてきた着物や鎧や甲など、貴重な文化財が、そのまま個々人のお宅に残されたままになっています。放射性物質に汚染されたので、持ち出せないのです。家族のアルバムなども、そのまま“ふるさと”に置いてきたままです。ですから、すでに2年8ヶ月近く、日々暮らしている3畳二間と台所（107号には風呂と書きましたが、風呂はありません）の仮設住宅には、想い出の品はほとんどないのです。

福島市では、双葉町の山田さんご夫妻に久しぶりに会いました（2013年2月107号をご参照ください）。光重さんは88歳、順子さんは84歳。光重さんは脚が不自由ですが、両手に杖をついて会場まで来られ、再会を喜び合ったのでした。山田さん夫妻は2町歩を耕してこられた大きな稲作農家ですが、酒造りもやっておられたのです。それは「山桜」と「大光」という二つの銘柄。戦後のある時期まで母屋の裏には美味しい水がこんこんと湧き出していました。光重さんは五歳の頃のことをよく覚えていると嬉しそうでした。ところが東電原発がやって来てから、この豊かな湧水は出なくなってしまったのです。今では20mも深いところまでボーリングしてポンプで汲み上げなければなりません。余分な電気エネルギーを使わないと、苗床づくりや田んぼの水も手に入らなくなってしまいました。

東電と日本政府は、一人あたり月々10万円の賠償金5年分を前倒しした600万円を支払って、全て済んだことにしたいようです。彼らは自ら撒き散らした放射性物質を「無主物＝何人の所有にも属さないもの」だとして、開き直っていますが、とんでもない話です。

写真：2013.03.14 山田光重・順子さん宅母屋 原発から約4km 88 μ Sv/h (771mSv/y)

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第117号 2013.12.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

秘密？



松井英介

「適切な経路を示してくれれば、被曝は防げた」。福島県浪江町の馬場有町長は訴えました。11月25日福島市で開かれた特定秘密保護法案の地方公聴会での発言です。この公聴会では、七人の公述人全員が反対または拙速はよくないとの意見を述べました。東電原発事故で政府の情報公開が遅れたことへの不信感は強く、「知る権利」をさらに制限する法案への批判が噴出したのです。

ところが、同じ25日の夜、自民党と公明党は衆院安全保障特別委員会の理事会で、26日に衆院本会議を開くことを強引に決め、翌日の本会議でこの法案を強行採決しました。公聴会とは、一体何だったのでしょうか？！

「全体主義につながりかねないという恐れを抱く」と、前福島県知事の佐藤栄佐久さんは、次のように述べています。「私は知事在任の途中から、原発に対して批判的な態度をとるようになった。国や東京電力に、都合の悪いことを隠そうとする体質が見え始めたからだ。東電は原発内で起きたトラブルの情報を速やかに地元に伝えず、公開しようとしなかった。原発の問題を指摘する内部告発も、東電と経済産業省に握りつぶされようとしていた。その体質は、福島第一原発事故を経た今でも変わっていないと感じる」（2013.11.26付中日新聞）。

全体主義といえば、ハンナ・アーレントの著作「全体主義の起源1、2、3」（1951原著英語初版、1955年ドイツ語版、1974年大久保和郎、大島かおり訳、みすず書房）が有名です。アーレントは、最近日本でも公開された映画「ハンナ・アーレント」（2012、マルガレーテ・フォン・トロッタ監督）によって、広く注目を集めています。「全体主義の起源3」第3章の最後（P.267）を、彼女は次のように締めくくっています。

「政治的・社会的・経済的な困難が人間らしいやり方で改善できないように見えるとき、全体主義の誘惑はかならず現れて来る。それは、全体主義的政権没落の後にも充分生き残るだろう」。

「自分は指示されたことを忠実に実行しただけだ」。イエルサレムの公判で、ナチス高官のアイヒマンは終始こう主張します。この裁判を傍聴したアーレントは「イエルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告—」（1963年英語初版、1974年大久保和郎訳、みすず書房）を書き上げます。

今こそ、日本列島を覆い私の中にも巣食う「悪の陳腐さ＝凡庸な悪」と向き合うときではないでしょうか。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第118号 2014.1.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

立ち上がったお母さん



寒風に咲くマユミの花

松井英介

「・・・専門家だという人たちにはともに考えてほしいし、・・・助けてくれるのではなく、一緒にこの事態を闘ってほしい」。福島県双葉郡富岡町から東京に避難した市村高志さんは、「自分たちのこれからを、ほかの誰かに勝手にきめられたくはない」。仲間たちと「NPO法人 とみおか子ども未来ネットワーク」を創りました¹⁾。

岐阜県にも、放射線汚染地から890人（2013.6.20岐阜県災害救援対策本部調）が移り住んでいます。積極的なお母さんたちは、地元の人びととともに「原発いらない」行動をつづけながら、生活支援を求める活動や裁判の準備を始めています。岐阜に移り住んだために余分にかかる生活費や交通費を国に請求することをADR（裁判外紛争解決手続；Alternative Dispute Resolution）というそうです。

原発は国策でしたから、原発事故の被害は、東電だけでなく、日本政府が償わなければなりません。ところが政府はこのADRを今年3月11日で打ち切りにしようとしています。とんでもない話です。福島から移り住んできたお母さんたちが中心になって立ち上がったのです。岐阜の市民や弁護士が、名古屋の仲間と連携しながら、動き始めています。松本市では、「子ども留学」の準備が進められています。チェルノブイリの子どもたちのために、優しい甲状腺外科手術を伝える活動に献身してきた菅谷昭さん（現松本市長）も積極的です。北アルプスをはさんでお隣の高山市とは姉妹都市。日本列島の真ん中から、新しい動きが全国に拡がろうとしています。

「人間は忘れっぽいものです。そのために、自分がこれまで受けた苦痛から次第に離れてゆくこともできるが、その忘れっぽさのために、前人のあやまちを再び同じように繰り返すことも珍しくない。・・・その救済法としては各人が一冊のノオトブックを買うことです」。これは、四日市の紡績工場で働く娘たちとともに「生活を記録する会」をつくり、後に四日市公害の記録を残し、今子どもたちに「語りべ」をしている沢井余志郎さんが、その著書の冒頭に引用した魯迅の言葉です。「生活を記録する会」は集団の中で書き、書いたことを話し合うことをとおして、自分で考え、行動する、自立した人間になることをめざしました²⁾。沢井余志郎さんたちの闘いのその後は、次号で³⁾。

3・11以後の心と身体の記録を残そうと準備してきた「健康ノート」が、間もなく出版されます。子どもからおとなへ、一人ひとりが「自分」を記録することによって、自らを客観的に観られるようになりたいものです。

【参考文献】 1) 山下祐介、市村高志、佐藤彰彦『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐる』（2013年）明石書店、P. 80, 303, 2) 沢井余志郎編 鶴見和子・田尻宗昭序『くさい魚とぜんそくの証文 公害四日市の記録文集』（1984年）はる書房 P. 10, 21, 22, 3) 沢井余志郎『ガリ切りの記 生活記録運動と四日市公害』（2012年）影書房、P. 236

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00～12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第119号 2014.2.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



「健康ノート」、なぜ

松井英介

2011年の3.11原発大惨事から間もなく3年。テレビを見てみると、困ったことは何もなくなり、すっかり以前の生活に戻ったかのようです。エスカレータが止められ花見を“自粛”した3年前がウソのようです。ところが、仮設住宅や借り上げ住宅に避難して、ずっと不自由な生活を強いられている双葉町の人たちは、「今までは夢中だった、やっとこれからのことを、じっくり考えられるときが来たような気がする」と言います。一方、全国各地に避難し、精一杯努力してきたお母さんたちは、疲れが溜まってきているのも事実です。一番の原因は先が見えないこと。もう少し踏みこんで言うと、政府が原発被災者の生活再建の方針を示さないから。原発事故の原因をつくった政府の責任を考えれば、それはいかにも遅すぎる！ そう思われませんか？

被災した人たちは、「子ども・被災者支援法」の制定をはじめ、さまざまな形で政府に働きかけてきました。こう書いてみて、私は考えるのです。被災した人って誰だろう？ たとえば、全国に流通する食べ物の汚染を考えれば、自分の子や孫も被災者ではないのか？

ドイツのセバスチャンおじさんは言いました。「私たちは同じ船に乗っている！」。

努力が足らなかったのは、同じ船に乗っている私の方かもしれない。

そんな想いが「健康ノート」（「健やかに生きる—健康ノート 内部被曝からいのちを守る」）にはこめられています。ですから、3.11以降の自分をふりかえり、記憶を掘り起こし、記録する。名前は「健康ノート」ですが、「いのちのノート」と言いかえてもよい。「生活ノート」と考えてもよいのではないのでしょうか。ちなみに英語では、いのちもくらしも人生も、ライフlifeで間に合せているようです。「健康ノート」のルーツをたどってみましょう。

1952年春、中学を卒業したばかりの若い女の子たちが、四日市の紡績工場に集団で就職、そこで生まれた「生活を記録する会」。彼女たちは戦後の新しい教育を受け、それまでの「紡績女工」とは違っていました。その彼女たちに新しい息吹を感じ、「生活を記録する会」を立ち上げたのは、後に四日市公害の記録を残した沢井余志郎さんです¹⁾ P.7。

「行動する、自立した人間を育てた」のは、沢井さんの功績であったと、鶴見和子さんは述べています。でも「そのために、沢井さんは、会社からも組合からもけむたがられる存在となった」とも²⁾ P.7。

(以下、次号)

〔参考文献〕 1) 沢井余志郎『ガリ切りの記 生活記録運動と四日市公害』（2012年）影書房、P.236

2) 沢井余志郎編 鶴見和子・田尻宗昭序『くさい魚とぜんそくの証文 公害四日市の記録文集』（1984年）はる書房 P.10, 21~2

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第120号 2014.3.1.

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



「健康ノート」、なぜ記録するのか

松井英介

私たち医師・医療者には、受診患者のカルテを保存することが、義務づけられています。患者さんが初めて受診されたとき、私たちは、今困っている病状のほかに、家族歴、既往歴、職業歴、喫煙歴、アスベスト暴露歴などについて訊かせていただいて、カルテに記録します。患者さんの中には、根掘り葉掘り訊かれて嫌だなと思う方がいるかもしれませんが、病状を判断するために必要だから、お訊きするのです。「健康ノート」はその延長線上にあるものだと、私は考えています。

「患者さんの病気だけ診る医者の小医、まるごと人間として診る医者の中医、患者さんの社会的背景まで診る医者を大医という」ことが言われます。できれば努力して、大医になりたいと、私は思っています。WHO（世界保健機関）は健康をつぎのように定義づけました。「肉体的精神的に良いだけでなく、社会的に良い状態を、健康という」。がんの90%以上は、環境にその原因があると言われます。がんの専門医といわれる医師も、このことに異論はありません。私は、がんだけでなく、その他の病気も、自然や社会環境にその原因があると思っています。患者さんでも、すでに気づいている方がいらっしゃる。でも、気づかなかったり、時間が経ったため忘れてしまう方もあります。

沢井余志郎さんは書いています。

「なんのために公害を記録するのか・・・その答えの一つは、魯迅のこの文章に書かれてある、『忘れっぽさのために、前人のあやまちを繰り返さす』そうならないためです」。

「産業界のみならず、国や自治体にとっても大きなショックとなった、患者側勝訴の四日市公害ぜんそく判決（1972年）から12年が過ぎました。それを待っていたかのように、企業も、行政も、そして、公害に反対することにつとめた学生や運動のリーダーからも、『四日市公害は解消した』との言動が公然化・・・『公害健康被害補償法』の地域指定を解除しようとする動きが顕著になっています」「しかし、・・・公害発生源はなくなっていないし、なによりも、公害患者がいまも発生している事実を消し去ることはできません。」「・・・事実を確認し、記録していくことは、今もなされなければならないと思います」^{1) P.22~3}。

「健康ノート」がやっと発刊の運びとなりました。ぜひとも手にとってお目通しください。これは個人の記録ですが、同時に、日本中でこの「健康ノート」が使われ、核の時代の証言集として、子や孫やさらに玄孫に語り継がれていきますようにと、願っています。

（以下、次号）

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00～12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第121号 2014.4.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



立ち上がる、子どもたち、

お母さん、お父さん

松井英介

2011.3.11から3年、いかがお過ごしですか。

福島など放射線汚染地域から岐阜県に移り住んでいる、子ども・お母さん・お父さんたち20人以上が、東電と日本政府を相手に、謝罪と賠償を求める裁判に立ち上がりました。悩んだ末の勇気ある決断です。

これを支える弁護士26人。そして、3月16日には、彼らを支援してきた地元の仲間とともに、岐阜市で集いをもったのです。その模様は、新聞記事をご覧ください。このように被害者が自ら立ち上がり主体的に動き始めたことに、私はとても励まされています。

3.11をはさんで少しさかのぼった3月8日には、ベルリンに移り住んだ日本の子どもたちとお母さんたちがドイツの仲間とともに集まり、日本大使館に抗議のデモを行いました。ドイツの子どもたちが“Kodomowo Mamore!”と上手にシュプレヒコールしていたのが、印象的でした。

「ちきゅう座」<http://chikyuzu.net/archives/43284> で、グローガー理恵さんの記事をどうぞ。

3月8日、ベルリンの青空の下、Sayonara Nukes Berlin主催の「反核デモ集会—風車デモ」が催されました。（中略）デモ集会において最も印象的だったことは、フクシマの子供たちの健康被害を憂慮する日本の医師として松井先生が、重要なスピーチをなさり、デモ参加者達の共感を呼んでいたことでした。（後略）

（動画へのリンクもあります：<https://www.youtube.com/watch?v=2gZZEvS0fU>）

集会デモの様子は「明日うらしま」でも見るができます。

<http://tkajimura.blogspot.jp/2014/03/foto-bericht-demo-in-berlin-am.html>



座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00～12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第122号 2014.5.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



「医師から見た広島、そして福島」

松井英介

4月13日から17日まで、京都と広島で開かれた国際学会（第18回世界気管支会議）に行ってきました。世界各国と日本各地から3,000人以上の呼吸器病の専門医が集まりました。

広島では一般市民を対象にした市民公開講座が開かれました。テーマは「医師からみた広島、そして福島」。私は「“低線量”放射線による内部被ばく」と題して話をしました。海外から参加した医師たちも、一般市民に混じって熱心に耳を傾けていました。終了後彼らが口にした、好意的なコメントが忘れられません。

今回の国際学会の会長、宮澤輝臣医師は広島に生まれ育った被爆二世です。

「内部被ばく」は、ご存知のように原爆被爆者集団訴訟の最大の争点です。原爆投下後に、家族を探して、あるいは救護のために、広島や長崎の街に入った人たちの急性症状や後から出てきた晩発障害（白血病やがん、先天障害、白内障などの病気）は、放射性微粒子による内部被ばくの影響が大きいということがわかってきています。原告である被爆者は、自分たちの病気が内部被ばくの影響だと訴え、各地の裁判所も原告の訴えを認めました。

しかし、被告である日本政府は今なお「内部被ばく」の健康影響を認めていません。国連安保理の直下にあるといわれる国連機関、国際原子力機関（IAEA）も国連科学委員会（UNSCEAR）も基本的には同じスタンスだと考えられます。「福島での被ばくによるがんの増加は予想されない」と述べた4月2日付UNSCEAR報告は、彼らの考えをよく表しています。原爆と原発を推進する核大国と国連機関がマスメディアや教育界さらに学界に大きな影響を及ぼしている現状では、「内部被ばく」から次世代＝子どものいのちを守ろう！という声は、異端とされかねません。このような大状況の下で、広島での市民公開講座のテーマに、あえて「内部被ばく」を取り上げた宮澤会長に、私は深甚の敬意を表したいのです。

広島保険医新聞2014-04-10（第458号、P.6）は、この公開講座を記事にし、同じページで、「健康ノート」について大きく報道しました。新聞に「健康ノート」のチラシも折り込んでくださり、広島からの注文が相次いでいます。



朝鮮人被爆者の碑
 広島平和公園

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00～12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第123号 2014.6.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



「美味しんぼ」が語りかける

「脱ひばく」

松井英介

「原発の運転で人格権が侵害される危険がある」とする判決が、5月21日福井地裁でありました。大飯原発運転差し止めた訴訟の判決です。人格権とは、人が自己の生命・身体・自由・名誉など人格的利益について有する権利（「広辞苑」）。「原発は人格権を侵害する」つまり「人間らしく生きることを否定する」と言い換えても良い。これ以上重い判断があるでしょうか！

そして5月26日、京都新聞は次のように報じました。

自主避難に初の賠償支払い命令 京都地裁、東電に 福島第1原発事故で福島県内から京都市内へ自主避難し、東京電力に損害賠償を求めて京都地裁へ提訴した40代男性が賠償金の仮払いを申し立てた仮処分の決定で、京都地裁（佐藤明裁判長）が東電に月額40万円の支払いを命じたことが25日、分かった。決定は20日付。

この裁判の訴状の一節を、以下に紹介します。

「郡山市でも、除染は行われているが、（中略）子ども3人と夫婦が暮らす一戸建て家屋で、除染作業終了後、ベランダから6.95マイクロシーベルト/時もの帰宅困難区域と同程度の線量が計測され、所有者が郡山市と被告に善処を求めたが、（中略）解決の方途が見つからない」（甲B第6号証）。「このような状況下の郡山市に幼い子どもたちを連れて帰還できないとの原告らの判断は、合理的であるし、今後、長期にわたって、このような状況が改善しないことも十分予測できるところである」。「チェルノブイリの教訓に学ぶとき、いかなる困難があっても、自分の人生をかけて我が子を守ろうとし、避難させようと思うのは、親としての当然の願いであり、行動である」。

以下は、この裁判のために書いた私の意見書、結論の一節です。

「2012年年8月までの自主避難については福島第一原発事故との因果関係を認めるものの、同年9月以降の自主避難については因果関係を認めないと聞きました。東電と日本政府のこの考え方は、今なお高線量の福島に幼い子どもたちを連れて帰還せよというものですが、これは、「低線量」内部被曝の健康障害について積み重ねられてきた国際的な知見を無視し、チェルノブイリ原発事故の経験に学ばない、子どもの人権を踏みにじる暴論という外はありません」。

この間の心ない「美味しんぼ」攻撃は、私たちに「何をなすべきか」を考えさせてくれました。

そして、これらの判決は「脱ひばく」＝次世代を被曝させない運動への大きな励みになっています。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00～12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第124号 2014.7.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



五常の寮
 最近、ツバメが飛んできます。
 巣を作りたいのかな...?
 幸運を運んでくださいな。

まつもと子ども留学基金 ニュースレター



まつもと子ども留学、
 子どもたちが入寮、
 そして学校へ！

まつもと子ども留学は、今

松井英介

まつもと子ども留学基金 ニュースレター 第2号 2014/6が届きました。

カラー写真つき、読みやすく楽しい記事満載の4ページです。その一部を以下に紹介します。

松本・四賀での生活が始まりました。

2014年3月、春休みに入り、福島から8人の子どもたちが松本・四賀の子ども寮へ引っ越ししてきました。住み慣れた家、大好きな家族、仲良しの友達とお別れして、新しい生活のスタートです。

短くこう書かれていますが、松本留学の実現は、先に松本に移り住んだお母さんお父さんと子どもたち、福島県内と全国各地でこれを支えた人たちのたゆみない努力の成果です。ここで忘れてはならないのが、松本市です。子どもたちを受け入れた地域の人びと、そして教育委員会をはじめ、市職員の方がたが、知恵と力を出し合ったのです。

菅谷昭松本市長が寮を訪問！

4月2日には、菅谷松本市長が、四賀地区を訪問され、寮へも立ち寄ってくださり、地域の方にもご挨拶をされました。



そして、なんといっても松本市長の菅谷昭さん。甲状腺外科の専門医です。菅谷さんは、28年前に起こったチェルノブイリ原発事故の被害にあったベラルーシの子どもたちのために、何年も現地に足を運びました。そして、1996年には信州大学を辞め、5年半ベラルーシに住み、優しい手術方法を現地の外科医に伝え、子どもたちのために献身的な活動を続けてきました。

ニュースレターには、子どもたちが、5メートルもあるのり巻きを上手に作ったこと。畑作りを始めたこと。味噌造り。野草を採って、美味しい天ぷら・・・



レター第1号は、今年2月に発行され、次のサイトで読むことができます。菅谷昭松本市長の記者会見の一部始終も収載されています。英文で読むこともできます。

http://www.kodomoryugaku-matsumoto.net/?page_id=614

「まつもと子ども留学の日々」という名のブログも楽しいので、ぜひのぞいてみてください。

<http://mkrge.exblog.jp>



おいしい天ぷらができました

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第125号 2014.8.1.

毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



菅野みずえさんへの、お詫び 「即座に15000頭を殺処分したのは国と県です」

松井英介

最近、私は新しく本を出しました。「『脱ひばく』いのちを守る—原発大惨事がまき散らす人工放射線—」(2014)花伝社。帯には『美味しんぼ』に描かれていることは事実だ！

この本の「はじめに」で、菅野みずえさんの話を、紹介しました(P.14-15)。みずえさんを知ったのは、福井地裁で画期的な判決を勝ち取った「大飯原発差し止め訴訟」原告団長でもある小浜市明通寺の住職・中篤哲演さんが送ってくださった報告集でした。そこにあったのは、とても印象的で忘れられない話でした。以下が引用文の一部です。

浪江町の酪農家・菅野みずえさんの話

「15000頭ほどの牛を殺処分した。それでも放れ牛がいて、人間を信頼して寄ってくる。『ごめんね、ごめんね』と言うしかなかった」

「今私たちは先祖の菩提寺に参りましても、手袋で靴の上にビニール袋を履いています。素手で何かに触ることなどありません。蝶々さえ見ることはありません。ツバメの巣は軒から落ちてしまいました。あれほど大きかった蔵の青大将にも会いません。見るのも嫌でしたが、今となっては素肌で地を這う蛇は生きていられないのかと哀れに思われます。人のせいです」

「私は拗ねているのか、国や県から絆と言われるのが嫌な気がします。『絆とはべこ繋ぐ紐のことだべ、おらたちは誰に繋がれ、どこさ連れて行かれるべか』そんな気がするのです。『紐で人さ繋がれるもんでねえ、人は自分で手さ繋ぐんだもの、紐さ要らにいべ』そう思っています」。

彼女は「コミュニティーごとに移り住める代替え地が欲しい」と訴えています。

ところが、この本をみずえさんに送ったところ、長文の便りが届きました。まず彼女は、酪農家ではありません、私の思い込みによる完全な間違いでした。もうひとつは、引用冒頭の記述です。これでは誤解を招きます。彼女は、怒りをこめて書いてきました。

「即座に15000頭を殺処分したのは国と県です」。

また、彼女はつぎのようにも書いてきました。

「こうして報告が誤って活字になって、それを読んだ浪江の方々に15000頭の酪農家なんてとんでもないほら吹きだべと思われてしまうのだろくなあとうなだれています。これまでも画面いっぱい原発食だの、恥を知れだのと書き込みの洗礼を浴びて怒りやショックよりこれも含めて原発事故、仕方がないという諦めは覚えたのでやっていけますが」。

これには私も参りました。「改訂版で訂正すれば済むという問題ではありませんが、今後最大限の努力をいたしますので、どうかお許しください。これに懲りずに、今後とも良いお付き合いをお願いいたします」と書くのが、精一杯でした。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

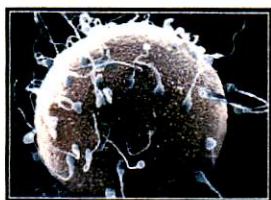
FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第126号 2014.9.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



私たちは子どもを産まない

松井英介

「私たちは子どもを産まない！」

衝撃的なこの言葉は、自国の原発推進政策に抗議して、約4000人の女性たちがまとめた宣言の要でした。

この運動はフィンランドの地方大学で生物学を専攻する女子大生が中心になって始められたといえます。1986年6月初め。チェルノブイリ原発事故が旧ソ連ウクライナで発生したのが同年4月26日でしたから、当時人類史上最大といわれた過酷事故からわずか1ヶ月あまり後に、彼女たちは署名を集め、この抗議の宣言を政府に突きつけたのです。

「1990年末までに4基の原発すべてを廃炉にせよ、それがうけいられなければ『私たちは子どもを産まない』」。署名用紙の、廃炉を求める理由はつぎのようでした。

「私たちは『原子力』を生命の連鎖を断ち切るような技術と捉えているからだ。原発の操業を許すことは、とりもなおさず死の灰（＝核廃棄物）を生産することにほかならない」。

このエピソードを私は、綿貫礼子の本で知りました。

「放射能汚染が未来世代に及ぼすもの—『科学』を問い、脱原発の思想を紡ぐ—」（2012年）新評論、P.103-4）。

膵がんを病んでいた彼女は、2012年1月30日84歳の誕生日（3月5日）を前に帰らぬ人となりました。彼女はつづけてつぎのように書いています。「彼女たちの主張はこの一点に集中していた。つまり、事故の有無にかかわらず、原発の存在そのものが反生命的であるという主張」。

さらに、翌1987年アムステルダムで開かれた科学者・NGO共済の「チェルノブイリ会議」の印象的なエピソードを紹介しています(同上書P.104-5)。

「この会議は、妊婦へのX線照射が小児がんのリスクを高めることを1950年代に疫学的に実証したアリス・スチュワートをはじめ、ロザリー・バーテル（放射線疫学者）、アーネスト・スターングラス（放射線物理学者）、市川定夫（放射線遺伝学者）が中心になって討議が進められた。少ない情報を如何にして共有して行くか、生殖に関する健康被害の実態は如何なるものかということが議論の焦点となった」「東側のポーランドから産婦人科医師の女性がこの会議に参加したことは参加者に驚きと感銘を与えた。彼女はどうやって『壁』を超えてきたかは聞かないでほしいと言った。チェルノブイリ事故による放射能が難なく国境を越えただけでなく、『東西の壁』をも超えさせるほどの大惨事であり、女性たち、医師たちに大きな衝撃を与えたのだと実感させられる出来事だった」。

3.11東電福島原発カストロフ後、女子中学生が口にしたつぎの言葉に、私たちは今一度、否、何度でも、謙虚に耳を傾けなければならないのではないのでしょうか。

「私たち、子どもを産んで良いのでしょうか？」。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第127号 2014.10.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



喜びのとき

松井英介

それは喜びの日でした。

2014年9月26日（金）、待ちに待った、第一回公判が名古屋地方裁判所で開かれたのです。朝から青空がひろがり、日向では少し暑いくらいの好天でした。開廷の午後2時まで建物の外でしばらく待ったのですが、それも楽しい交流の時間になりました。

愛知県支援センターの向井忍さんが首からかけておられた鼻笛が話に花を添えました（写真）。5cmほどの木に二つ穴が開けられただけの素朴なものです、3オクターブを吹ける人もいるのだそうです。コンサートをやるグループも。インターネットで見ると、ルーツは南米のインディオだとか。ベトナム製などを売る民芸店のサイトも。

話がそれましたが、この日一番嬉しかったのは、今回の福島第一原発訴訟に立ち上がった原告の方々。3.11原発大惨事がばらまいた放射性物質からいのちを守るために、愛知と岐阜に移り住んだお母さんとお父さん。そしてこの裁判準備のために、多くの時間を割き、公判当日傍聴者のための資料まで作ってくださった愛知と岐阜の弁護団。休みも返上して一軒一件訪ねて相談に乗ったり、子どもたちを田植えや稲刈りや芋掘りに誘ったり、勉強手助けの会をやったり・・・さまざまな支援活動を続けてきた市民・住民。

名古屋地裁2号法廷の傍聴席は満席でした。そして、入れなかったひとが外にも。訴訟の手続きだけで終わる通常と異なり、細井土夫弁護士と原告代表岡本早苗さんの意見陳述に始まり、パワーポイントを使った訴状概要の説明も準備され、傍聴者にはとてもわかりやすく感銘深い公判でした。訴状の概要では、東京電力と国の損害賠償責任の法的根拠が明快に浮き彫りにされました。なかでも、名古屋生まれの原告・早苗さんが大阪生まれの夫と出会い、福島県の人たちの暖かい人柄と豊かな自然に魅せられて、終の棲家と定めた伊達市で、3.11大惨事に見舞われた後3年半の苦難の訴え。それは、傍聴席の私たちの涙を誘っただけでなく、裁判官の心をも動かししました。私の眼は見逃しませんでした。不遜な態度を示していた被告政府側代理人の表情にも変化が見られました。

交流の場で「文字が伝えられるのはほんのわずかだ。直接顔を見ながら生の声で話し合ったとき、ほんとのことがわかる」と言われてきましたが、このことは、IT時代にあってもますます強調されなければならないと感じさせられたのでした。

第二回公判は、12月12日（金）午後1時10分からです。

折しも名演小劇場では、喜びをテーマにしたチリの感動作「N0」が上映されていました。今の日本とよく似た閉塞的状況下で行われた国民投票。それを美事成功させた若きお父さん広告マンの、実話にもとづく物語です。

座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第128号 2014.11.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



福島県知事選、克隆さんの決断

松井英介

2014年10月26日投開票された福島県知事選開票結果は、当490,384 内堀雅雄 129,455 熊坂義裕 29,763 井戸川克隆（以下略）。投票率は45.85%で過去二番目に低かった（27日付東京）。約54%の県民は投票しなかったことになります。有権者が約160万人ですから、民主と社民が担ぎ自民が相乗りした前副知事内堀氏の得票は三分の一にも届いていません。

元双葉町長井戸川克隆さんは、約3万票を獲得しました。3.11東電福島第一原発大惨事以降、親しくお付き合いするようになった者のひとりとして、ここでは克隆さんと呼ばさせていただきます。

双葉町は東電大惨事が撒き散らした膨大な放射性物質によって最も激しく汚染された町です。人口7千人ほどの町の責任者として、克隆さんは全町民ができるだけ遠くへ避難できるようにと考え、国の支援・指示がない究極の混乱の中で最大限の努力をしました。避難先として中部地方も考えたそうですが、最終的には町役場も埼玉県加須市の騎西高校に移ったのです。

福島県下の自治体の中で唯一県外に行政の中核を移した双葉町。その後放射性物質による汚染の実態が明らかになるにつれ、克隆さんの判断が正しかったと、私は確信をもって言えるようになりました。国連グローバー勧告やIPPNW声明（放射線量の高い福島市や郡山市からの移住を提言）も彼の判断を支持しています。

ところが当初の混乱の中で、県外に移らず県内の仮設住宅や借り上げ住宅に住まざるを得なくなった双葉町民も多かったのです。知事選候補者が一堂に会する公開討論会（10月2日、福島青年会議所主催）の席で克隆さんは謝罪の言葉を述べました。それは福島県内の仮設住宅などに住む町民と話し合う努力が足らなかったことにたいする反省の気持ちだったと思います。私も、熊坂さんと政策協定を交わして対立候補を一本化できればなどと考えていた一人ですが、選挙戦を通じて自分の政策をひとりでも多くの町民・県民に訴えたいという克隆さんの決意は堅かったのです。

選挙後お宅に電話すると、奥様ともども元気な声でした。

「内堀氏は、子どもたちから訴えられますよ。副知事時代に、仮設住宅はダメだ、汚染の少ないところへ移り住めるようにしなければ、と提案しても、耳を貸さなかったのだから。」「今度の選挙で私の訴えを聴いて、よく言ってくれたという人が各地にたくさんいた。福島県内に新しいつながりができた。ポスターも、顔写真を小さくして、政策を大きく書いたのです。」と嬉しそうでした。

ポスターのことば；「あなたは放射能から子どもを守っていますか。史上最大の事故には、史上最大の救済が必要です」。

「私は今、新しい核戦争の最前線にいます！」。郡山市に間借りしていた双葉町役場支所で聴いた克隆さんの言葉を、私は忘れられません。

座禅洞だより

第129号発行日

命を大事にする意識

中島かおりさん
東京都豊島区
助産師(43)

経済成長は難しいという前提でどうすればハッピーに暮らせるか。五十年先を見据えて語ってほしい。原発を再稼働させるならあの事故は何だったのか。集団的自衛権の行使を認める人は、自衛隊員の命をどう考えているのか。私は助産師。母親と赤ちゃんは命がけで産み、生まれる。だから、候補者の命を大事にする意識に注目する。産科医の勤務は過酷。医療や介護は現場の必死の頑張りで支えられている。お金よりも労働力をどう使うか、産みやすい社会をどう作るか示してほしい。



東京新聞2014年11月22日付

私たちは
ここを見る

いのちは地球より重い

松井英介

あれよあれよという間に衆院は解散し12・14投開票に向かって走りだしました。総選挙にかかる費用は700億円、有権者1億人一人当たり700円の税負担。それに先立つ沖縄県知事選では、辺野古に新たな米軍基地は作らせないと訴えた翁長雄志さんが過半数を獲得、仲井真弘多現知事に大差をつけて当選しました。沖縄のジュゴンに残り3頭と絶滅寸前。このジュゴンと豊かな海を守るために、人びとは翁長雄志さんに一票入れたのです。それでもジュゴンの海に巨大なコンクリートの壁＝米軍滑走路を作るため杭打ちを強行すると、自民党公明党は息巻いています。

「母親と赤ちゃんは命がけで産み、生まれる。だから、候補者の命を大切にする意識に注目する」。豊島区の助産師・中島かおりさんの言葉です（東京新聞11月22日付）。

東北関東をはじめ日本列島全体を人工放射性物質で汚染し、次世代にいのちの危機をもたらした日本政府と東電。人類史上もっとも深刻な原発大惨事解決の見通しが全く立たないまま、自民党公明党は、川内原発（鹿児島）を再稼働させ、新たに大間原発（青森）を新規稼働させるとは！？。

福島市や郡山市など東北新幹線が走る中通りには、チェルノブイリ法が住んではいけないと定めた5mSv/年以上の地域が広がっています。その汚染された地に、次世代を住み続けさせる日本政府と東電。その東電を、日本政府は何兆円もの税金で優遇。アベノミクスで笑いの止まらない日本巨大企業上位30社の第7位に、東電はランクされているのです。3.11大惨事以降3年9ヶ月、次世代のいのちを守るために、自民党公明党政府はいったい何をやってきたのでしょうか。

生まれ来るいのちを粗末にはしてはいけません。子どもたちは、置かれた社会的経済的環境によって大きく左右されます。科学技術の急速な進歩・発展は、便利さと同時に有害化学物質とそれによる健康障害をもたらし、人工放射性物質が追い討ちかけました。松井和子の本がやっと出版の運びとなりました。

推薦の言葉：

「著者は、障害のある子どもたちの教育に携わってきました。そこで出会った子どもの姿を描き、自分の気持ちを述べています。著者のこころが伝わってきて、こちらのこころも温かくなります。多くの人に読んでいただきたい本です」。

高谷 清（小児科医 びわこ学園医療福祉センター草津・前園長）。

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00～12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第129号 2014.12.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



松井和子

松井和子著「私が出会った子どもたち」
(2014) 日之出印刷出版事業部